小柴　康隆

KOSHIBA　YASUTAKA

1995年　福島県会津若松市出身
2019年　地域おこし協力隊として高柳町門出地区に赴任

高柳町門出地区の地域おこし協力隊として活動する小柴康隆さん。門出地域での生活も丸2年が過ぎて、現在は任期終了後の移住へ向けて、少しずつ準備を進めている。

小柴さんは福島県会津若松市出身。協力隊となるまで地元を離れたことはなかったと話す。観光学やサービス業について学ぶ専門学校を卒業後、福島県内にある和風建築の温泉旅館で働いていた。

協力隊応募のきっかけは、自然や文化に触れる仕事がしたい、田舎暮らしを経験したいという思いから。全国各地の協力隊の募集の中から、かやぶきの里の古民家の宿に惹かれて門出地区の体験に応募。その時に、「地域の人たちの暮らしや自然に対する考え方、感性や芸術論に触れ、学んでみたいと思った」ことがきっかけになったという。

小柴さんが担当する門出地区協力隊の主な仕事は「門出かやぶきの里」の「おやけ」と「いいもち」2棟の宿に関わること全般。そして、高柳地域の行事や集落に関しての手伝いをすることだ。

宿泊客の接客や宿の掃除、薪割り、宿周辺の景観を保つための草刈りなど環境全般の管理を行う。田んぼで田植えや稲刈りを行い、家畜として世話をしている鶏の卵も利用する。冬囲いの際には自ら鶏を解体し、その肉で焼鳥や鶏汁を振る舞ったという。

この2年間はコロナ禍のために宿の利用も少なく、また冬の間、かやぶきの里は休館するため、小柴さんは任期後のことも視野に入れて宿以外の仕事にも挑戦してきた。

昨年の冬は、高柳町内の石塚酒造にお願いをして、酒造りの仕事を手伝わせてもらった。杜氏やベテランの人たちの指示を受けて力仕事や道具の洗浄をしながら、初めて酒造りの仕事を体験することができた。また、春にはいいもちの屋根の修理に訪れた職人から声を掛けてもらい、かやぶき屋根修復の仕事を少しずつ学んでいる。

観光業の需要が減り、宿の仕事は厳しい状況が続いているものの、かやぶき屋根の修復に携わりさまざまな現場で経験を積んでいることを、「文化財修復の仕事をしたいというかつての夢が少し叶ったような気がします」と前向きに捉え、「最初は何もできないけど、とりあえず行ってみてもいいですか、という気持ちで始まった協力隊だったが、逆にコロナ禍でいろいろなチャンスをもらった」とも考えている。

宿の仕事と農作業に屋根の修復、冬には酒造りという1年のサイクルは、「季節に応じた贅沢な暮らしだとよく言われます」と笑顔を見せた。

facebookもチェック!

お問い合わせ

✉ kz.kyouryokutai.kd@gmail.com